

ぼうさい あびこ⑦

避難に関する知識

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの要配慮者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

また、避難所での生活を余儀なくされる場合も自主防災組織を中心にみんなで助け合いましょう。

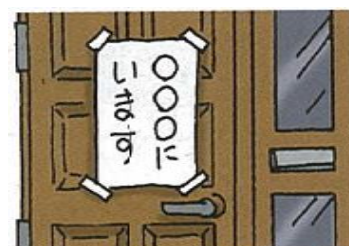
■避難のタイミングを見逃さない

- 市から避難勧告や避難指示（緊急）が出たとき。
- 津波、土石流、がけ崩れ、地すべりなどの恐れがあるとき。
- 建物が倒壊する危険があるとき。
- 近隣で火災が発生し、延焼の恐れがあるとき。
- 自宅で火災が発生し、火が天井まで燃え移ったとき。
- 危険物が爆発する恐れがあるとき。



■避難するときはこんな服装で

- ヘルメット（防災ずきん）をかぶる。
- 非常用持出品は両手が使えるようにリュックサックに入れて背負う。
- 長袖・長ズボンを着用。
- 軍手や革手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを履く。



■避難時のポイント

- 避難する前にもう一度火元を確認。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーも落とす。
- 荷物は最小限の非常用持出品に限る。
- 外出中の家族には避難先を記した連絡メモを目立つ場所に残す。
- 移動するときは、狭い道や、塀や自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所は避ける。
- 決められた最寄りの避難場所へ徒歩で移動する。
- 子ども、障がい者、高齢者など要配慮者を中心にして避難者がはぐれないようにする。